

Cs-134,Cs-137 以外で検出されたその他 γ 線核種一覧（平成 26 年度）

平成 26 年度に環境省が実施した「平成 26 年度水環境放射性物質モニタリング調査業務」において、ゲルマニウム半導体検出器による分析を行った水質、底質及び周辺環境（土壌）について、測定データの解析を行い、放射性セシウム 134 及び放射性セシウム 137 以外の γ 線核種（事故由来放射性物質（I-131、Ag-110m、Te-129、Te-129m、Nb-95、Sb-125、Ce-144 等）及び主な自然由来放射性物質（K-40 等））について媒体（水質、底質及び周辺環境（土壌））別に解析を行った。

水質 3,856 検体、底質 3,035 検体、周辺環境（土壌） 4,524 検体について解析したところ、人工核種としては、放射性セシウム 134 及び放射性セシウム 137 以外は検出されなかった。

また天然核種としては、水質ではカリウム-40（全検体数の約 10%）、底質では鉛-212（同 48%）、鉛-214（同 24%）、タリウム-208（同 24%）、ビスマス-214（同 24%）、アクチニウム（同 24%）、カリウム-40（同 91%）、周辺環境（土壌）では鉛-212（同 23%）、タリウム-208（同 8%）、アクチニウム-228（同 9%）、カリウム-40（同 91%）等が検出された。